

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	10	学校名	田方農業高校	記載者	植平 充彦
------	----	-----	--------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア	農業高校で学ぶ知識と技術をしっかりと体験し身に着ける。 （基礎学力の定着。実践・実習を大切にする。 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な学び」の一体的な充実)	常に授業を大切に し、準備をして臨む ことができた生徒 90%以上。 ----- 基礎学力が定着した 生徒 90%以上、 保護者 55%以上。 ----- 毎日の学習活動で 個人端末を活用した 生徒 90%以上。	B	B	<p>1 スタディアプリ活用での成果は大いに評価できると思います。</p> <p>2 自己評価Bとされているが、数値目標に対する達成率はほぼクリアしているため、Aで良いのではないかと思います。</p> <p>3 農業現場ではスマート農業の普及が加速しており、ICT活用は今後の就農者が必ず身に付けるべき素養となります。その点で、Chromebookや各種ICT教材を活用した授業が行われていることは、農業高校として非常に重要な取り組みだと感じます。また基礎学力が進路選択の幅を広げる観点からも、学力定着への継続的な取り組みは評価できます。</p> <p>4 漢字と意味テストの実施は、基礎学力向上のために有効だと思います。進学試験、就職試験ともに読解力が必要になるので国語力の強化は必須と思います。</p> <p>5 生徒、保護者ともに良好なアンケートの結果であり、日頃の先生方の取り組みの成果がある。課題に記されている「個人差」や「少数」という状況を把握し、指導していただいていると思う。今後も誰一人取り残さないを前提とした取り組みを期待する。</p> <p>6 机上の荷物散乱は、机サイドのサブバック活用、授業冒頭での整理習慣喚起を徹底して欲しい。</p> <p>7 クロームブックの貸し出し管理は更に厳正にし、100%</p>

					<p>を達成するよう頑張ってください。</p> <p>8 個人端末の活用率について、家庭で学校指定の個人端末以外を活用しているケースもあるのではないのでしょうか？設問の問い方を変えると数値が良くなる可能性があるのではないかと感じるため、端末を固定した活用率ではなく家庭で所有している端末も含めたICT 機器活用という聞き方にしてはどうでしょうか？(家庭内の端末を活用しているケースもあるのでは)</p> <p>9 学科間の差や個々の学力差は、将来の職業選択に影響するため、さらなる個別最適化と教員側の工夫・指導体制の強化が求められると感じました。</p> <p>10 特に国語・英語・数学の基礎学力向上の方策を検討することも大事だと思います。(小テストの実施)</p> <p>11 学力の向上においては、定期試験の結果をしっかりと分析することが大事だと思います。また、勉強を習慣化させるには、宿題等の課題を課すことも効果的だと思います。</p> <p>12 成果目標「図書室を有効に活用できたとする生徒30%以上」集中勉強月間に利用するなど、「図書室」という名称に拘らず、場の活用をする工夫を検討ください。</p> <p>13 体力低下においては、「全体」と記されており、次年度以降の取り組みに期待したい。</p> <p>14 端末の活用については、今後さらに「協働的な学び」に活用し、生徒の思考力や判断力、表現力の育に期待する。</p>
イ	自ら考えて、自他のために行動する力を身に付ける。	<p>実験実習等で挨拶や感謝の言える生徒95%以上。</p> <p>自発的・積極的・粘り強く授業や家庭学習に取り組む生徒75%以上。</p>	B	B	<p>1 地域農業の担い手不足が深刻化する中、仲間と協働し、責任を持って作業に向き合う姿勢は、農業者としても社会人としても不可欠な資質です。</p> <p>2 実験実習や日常の清掃活動</p>

		<p>自分の意見や考えを持ち、他者の意見を認める生徒 95%以上。</p> <p>図書室を有効に活用できたとする生徒 30%以上。</p> <p>整理整頓を意識し清掃が行える生徒 90%以上。</p>		<p>などを通じて、この力が育っている点は高く評価できます。ただし、自己管理や読書習慣など「自律」に関わる部分には個人差が見られ、これは働き手としての成熟度にも直結します。</p> <p>3 教員のみなさんが、生徒が自分で考えて動けるような場づくりや声かけを続けてくださることで、一人ひとりの成長がさらに伸びると感じています。</p> <p>4 自発性と協調性のバランスの取れた生徒の育成がなされている。特に感謝の思いを挨拶として伝えられる生徒 98%はほぼ全員である。日頃の指導の賜物と言える。今後も社会人として巣立っていく生徒に引き続きのご指導をお願いしたい。</p> <p>5 図書室の有効活用の達成率が 14%と、非常に低いことが残念です。 端末で読書する時代に、図書室活用は難しい事は仕方がない事と理解はできるが、図書館活用はネット環境と違い、誤情報、極端な意見が少なく、確証バイアスに陥りにくい環境である。良策を提示出来ず申し訳ありませんが、活用率を高めるようお願いしたい。</p> <p>6 図書室の活用ということに対する課題感は記載の通り、紙の書籍や資料を使うという時代ではなくなったため、「図書館」という場を活用する必要性や魅力の打ち出しを考える必要があると思います。「図書館」の活用を促進したいという趣旨であれば、外部人材(地域の方々やOBOG等)の力を借りて、その場にリアルで集まることで得られる知見を提供する場づくり、という考え方はどうでしょうか？ また、情報活用を促進したいという趣旨であれば(図書館そ</p>
--	--	--	--	--

					<p>のものというより図書館が提供してきたコンテンツ)、設問の問い方を変えた方が良いのではと思います。</p> <p>7 朝読書の実施は評価できません。なかなか図書室につながらないようですが、年間00冊以上図書を借りた生徒を表彰することも効果的だと思います。この結果を進学・就職等の調査書に記載するとすれば、生徒の高評価につながると思います</p> <p>8 成果目標「図書室を有効に活用できたとする生徒30%以上」 集中勉強月間に利用するなど、「図書室」という名称に拘らず、場の活用をする工夫を検討ください。</p> <p>9 図書室をどのように経営するか、どの学校も課題となっていると思われる。調べものは特別なものを除いて端末が便利であると思うので、図書室をくつろぎの場とし、雑誌や読み物を増やしていくことも考えられる。身近な地域に書店も少なくなっている。幼稚だが、きれいな絵本なども普段忙しい高校生には良いかもしれない。大人も絵本が人気の時代である。社会の状況等考えると、癒しの場も学校内には必要か?</p>
ウ	<p>将来の生き方・暮らし方・働き方を考える。(キャリア教育と進路指導の充実)</p>	<p>進路意識が高まった生徒90%以上。 進路支援が十分行われていると感じる生徒90%以上(93)、保護者80%以上。 関連産業・学校に進む生徒の割合20%以上。</p>	B	B	<p>1 保護者と一緒にガイダンスを行ったということは、非常に素晴らしい取り組みだと思います。</p> <p>2 進路行事や個別相談など、生徒が自分の将来を考える機会が丁寧に用意されている点がとても良いと感じました。また、金融経済教室のように“進路の幅が広がる学び”を取り入れていることは、今後の職業選択に大きく役立つため、特に評価したい部分です。</p> <p>3 将来を心配する親の気持ちから、将来の働き方の多様性や今後の職業推移を未経験な親</p>

					<p>の立場で考えると、「知らないから」という親の経験則に則って、進路選択範囲を狭めてしまうケースもあると聞くので、子ども達への訴求はもちろん大切だが、子ども達がやりたいことを見つけチャレンジできるサポーター作りという視点で、保護者への訴求もこれからさらに大切になってくると考えています。</p> <p>4 進路意識に差がある生徒もいるようなので、さまざまな体験を通して「自分で選ぶ力」をさらに伸ばしていけると、Aランクに近づくとと思います。 教員のみなさんが、社会の変化や新しい働き方を伝え続けてくださることで、生徒の視野がもっと広がると感じています</p> <p>5 関連産業への進学・就職比率を上げるために、様々な取組がなされていると思います。生徒の意識の高揚を図ることが第1だと思いますので、民間講師事業の強化、関連産業へのインターンシップの実施が効果的だと考えます。また、保護者の理解も必要ですので、進路説明会への100%参加、確実に進路便りを保護者に渡すことも理解につながると考えます。</p> <p>6 バス代等を予算化し、企業や学校訪問の実施も効果的だと思います。</p> <p>7 修学旅行先で学科別の企業・学校訪問を取り入れることも有意義だと思います。検討されたらいかがでしょうか。</p> <p>8 アンケートの数値からは「A」評価でも良いと思うが、課題にあるようによりきめ細かい指導に期待する。</p>
エ	学校農業クラブ・生徒会・部活動によって自治を学ぶ。	<p>学校農業クラブ活動に積極的に関わった生徒70%以上。</p> <p>学校行事等を積極的に行った生徒95%以上。</p>	A	A	<p>1 田農祭での生徒の積極性の高まり、各種活動での生徒の活躍ぶりは誠に素晴らしい。</p> <p>2 メロンパン制作で、生徒と一緒に出来る機会がありました</p>

		<p>子供が特別活動（行事・部活・委員会等）に満足していると感じる保護者 70%以上。</p>			<p>が、製品作成への取組姿勢や意見発信などとても感心させられました。</p> <p>3 農業クラブや田農祭、生徒会活動に、前向きに取り組む生徒が多く、学校全体がとても良い雰囲気動いていると感じました。仲間と協力しながら活動をつくり上げる姿は大変すばらしく、生徒の主体性やリーダーシップがしっかり育っていることがうかがえます。こうした経験は、将来どんな仕事に進んでも大きな力になるため、学校として丁寧に機会をつくっている点を高く評価します。今後も、活動の意義が生徒自身により伝わるよう、教員のみなさんがそっと背中を押しながら支えていただけると、さらに良い成果につながると思います。</p> <p>4 PTA 専用の LINE 公式アカウントはあるのでしょうか</p> <p>5 農業クラブへの生徒の関わり方が良く分かっていないが、ここへの関わりを促進するためには、何か対策が考えられるものでしょうか？</p> <p>6 学校活動の保護者への周知を確実に行うことが理解度を高めることに繋がると思いますが、確実に伝わっていることの確認をどうするか検討が必要だと思います。</p>
オ	<p>伊豆田方分校等との「共生・共育」によって社会の多様性について学ぶ。 (インクルーシブな学校運営モデル事業)</p>	<p>共生・共育の交流活動各科 3 回以上。 講師招請を含めた地域連携活動各科 4 回以上。 共生・共育の検証実施</p>	A	A	<p>1 田方農高と伊豆田方分校の取組は大変すばらしい事だと思う。</p> <p>2 「共生・共育」というスタンスがとても素晴らしいと思います。伊豆田方分校との交流や講師招請など、共生・共育の活動が丁寧に続けられており、生徒がさまざまな価値観に触れられる環境が整っている点を高く評価します。</p> <p>3 金融機関の立場から見ても、多様な人と協力し合う力は、地域社会や将来の職業選択においてますます重要になる力で</p>

					<p>す。こうした経験を高校段階で積み重ねられることは、生徒の視野を大きく広げ、社会に出たときの大きな強みになります。今後も、生徒が安心して交流できる場づくりを続けていただけると、地域全体の学びにも良い循環が生まれると感じています</p> <p>4 インクルーシブ教育はしっかり実施されていると思います。</p> <p>5 生徒間の交流が進んでいるようであるが、参加した生徒の声を聞いてみたい。また、今までこの取り組みに参加された卒業生の意見も伺いたい。</p> <p>6 小中では同じような交流をしているのか、ご存じであれば教えて貰いたい。</p>
カ	<p>全ての生徒・教職員が安全で安心して学ぶことのできる場をみんなでつくる。</p>	<p>学校全体で特別支援教育や教育相談、通級指導の情報共有5回以上。</p> <p>地域防災を意識している生徒50%以上。</p>	A	A	<p>1 南海トラフ地震が現実化を増している中、防災意識の向上を高める活動は非常に有意義であり、評価に値する。</p> <p>2 情報共有もしっかりなされている様で、今後も引き続き、SCとの連携も促進しながら共有が進んでいけば良いなと思いました。</p> <p>3 別支援や教育相談の体制が整い、防災を含む日常的な安全教育が丁寧に行われていることで、生徒が安心して学校生活を送れる環境がしっかり築かれている点を高く評価します。また、最近は災害だけでなく、情報リスクやメンタル面の変化など、危機管理の概念そのものが多様化しています。学校が職員間でこまめに情報を共有し、生徒の小さな変化にも気づこうとする姿勢は、この“多様なリスクに対応できる力”を育てるうえでとても大切だと感じています。</p> <p>4 生徒が「安心して挑戦できる学校」であることは、将来どんな職業に進むうえでも大きな支えになります。今後も、この</p>

					<p>あたたかい連携体制が続いていくことを期待しています。</p> <p>5 アンケート結果から地域防災の意識向上をもう少し図る必要があると思います。そのためには、先生方の防災研修も必要だと思います。引き続き継続して頂きたい。職員の防災研修も是非取り入れてほしい。</p>
キ	<p>持続可能な社会をつくるために、保護者や地域社会と連携する。</p>	<p>時代に即した P T A 活動の在り方検討。</p> <p>J A や地元農家・企業との連携が促進。熟議が学校運営に反映したと感じる委員 100%。</p>	B	B	<p>1 P T A 活動の工夫や地域の企業・団体との連携が進んでおり、生徒が“社会とつながる学び”を体験できている点はとても高く評価できます。特に、持続可能な社会をつくるには、地域の人や仕事を理解し、協力し合うことが欠かせないことを、生徒のみなさんに丁寧に伝えている点が印象的でした。</p> <p>2 成果目標「JA や地元農家・企業との連携の促進」農林事務所では、生産者だけでなく、地元食材の魅力を活かし、積極的に使用する人材や加工業者との連携にも取り組んでいますので、今後も貴校の協力をお願いいたします。</p> <p>3 田方農業高校は、地域社会や関係機関と積極的にかかわり、生徒の活躍の場をつくり教育効果を高めている。</p> <p>4 高校の P T A 活動は、「強制から任意へ」と大きな転換期にあり、難しいかじ取りを求められると思われませんが、形式化されている活動を精査し、必要な時だけの「ボランティア活動」へ移行する。またオンライン会議や連絡のデジタル化を進める等、時代に即した変化をお願いします。</p> <p>5 P T A の活動については、近隣校や他県の状況も調べて、良い点があったら真似をしていくということができれば良い</p>

				<p>などと思います。</p> <p>6 今後は、「なぜ地域との連携がサステナブルにつながるのか」を、生徒自身がどう受け止め、どこまで理解できているかを確かめながら進めていただくことで、学びの実感がさらに深まり、活動にもより主体性が生まれると感じています。地域と学校が一緒になって未来を考える、このあたたかい取り組みが今後も続いていくことを期待します。</p> <p>7 PTA活動をもう少し活性化するために、さらなるPTA役員との連携が大事だと思います。</p> <p>8 地域との連携では、小さな収穫祭の実施、伊豆の国市・AOI機構・農業環境健康研究所との連携によるスマート農業の実施などができていますので、さらなる連携を構築されることを期待します。その際、生徒引率の在り方を検討する必要があると思います。</p>
ク	<p>新しい時代の価値観に沿った働き方、専門職性を修得する。</p>	<p>専門職性向上のための研修実施。</p> <p>ワークライフバランスと生産性向上。</p> <p>教職員の不祥事、体罰、交通事故0件。</p> <p>監査、検査の注意0件。</p>	B	<p>B</p> <p>1 研修や情報共有を通じて専門性を高めようとする姿勢は前向きで評価できます。</p> <p>2 職員の皆様の働き方に対する部分は、負担軽減(ライフワークバランス)とやらなければならない業務・やりたいと考えている業務・地域との連携促進の部分等、悩みが大きいカテゴリーかと思います。</p> <p>3 生徒の為になにがベストかという視点を常に持っていたきつつ、負担軽減をできる部分に関しては外部人材の活用や地域への協力依頼等、取捨選択と連携を我々も一緒に模索できれば良いと考えています。</p> <p>4 ただ、「不祥事がない=良い」では、本来目指す姿が見えませ</p>

				<p>ん。“犯罪がない社会が良い社会ではない” のと同じで、評価はポジティブな目標に基づくべきです。だからこそ、何を高めたいのか、どんな力を育てたいのか、そのためにどんな研修や行動をしたのか、を示す評価指標に、ぜひ見直していただきたいと感じています。ここは特に強くこだわりたい部分です。</p> <p>5 様々な研修に先生方は参加されていると思いますが、伝達講習を確実にすることも大事だと思います。</p> <p>6 外部講師による研修も効果的だと思います。</p>
--	--	--	--	---